

ハース3度目V狙う

18日・ロードレース展望

台風18号の大雨被害の影響でコースが短縮された。これまで11周151.3キロで争われたレースを、14周144.2キロで争うことになる。

これまで最終周回で使われていた10.3キロのコースをベースにして、従来より周回を3周増やした。それに伴い、古賀志林道への登坂回数も増加、クライマー系の脚質を持った選手が有利との見方ができる。

短い「助走区間」

例年、終盤に激しいトップ争いが繰り広げられるが、今回はコース短縮で、標高差185メートルを駆け上がる古賀志林道への「助走区間」が短くなった。これまでとは違ったレースが展開されるかもしれない。

その中で優勝候補筆頭とされるのは、前回覇者で、過去2度の優勝を誇るネイサン・ハース(豪州、キャノンデール・ガーミン)だ。相性のよいジャパンカップで3度目の頂点を狙う。

チームとして注目したいのは、ことしの「ツール・ド・フランス」で、クリス・フルーム(英国)を擁し2年ぶりの総合優勝を果たしたスカイ(英国)。3年連続の出場となり、前回はクリテリウムで王座を奪取。今回、フルームは欠場するが、ベルンハルト・アイゼル(オーストリア)ら実力選手が居並ぶ。

初参戦のBMCレーシング(米国)も注目度は高い。期待の若手、テイラー・フィニー(米国)は出場を見送ったが、2014年世界ランキング2位チームの走りには「はずれ」はないだろう。

このほか、26歳のディエゴ・ウリッシ(イタリア)をエースに据えるランプレ・メリダ(イタリア)、

周回増、クライマー台頭か 充実布陣のスカイ、BMC 増田、佐野ら地元勢も野心

別府史之(べっぷふみゆき)が所属するトレック・ファクトリーが「UCIワールドチーム」として世界最高峰チームとしての評価を受ける。

世界選手権メンバー

一方、注目したい日本人選手は、別府と、日本ナショナルチームの新城幸也(あらしろゆきや)(ヨーロッパ)、ブリヂストンアンカーの中心選手・内間康平(うちまこうへい)だろう。この3選手は先月、米国で行われた世界選手権に出場、新城を17位に食い込ませる好走を見

せている。

県勢は宇都宮ブリッツェンのエース・増田成幸(ますだなりゆき)が上位を目指す。けがからの復調が気になりだが、本人のモチベーションは高い。このほか、ブリッツェン鈴木譲(すずきゆずる)、那須ブレーゼン佐野淳哉(さのじゅんや)、鈴

木龍(すずきりゅう)らが表彰台に照準を絞っている。

山岳賞は3周ごとに古賀志林道山頂を通過した選手に与えられる。今回はブリッツェン堀孝明(ほりたかあき)、ブレーゼン雨沢毅明(あめざわたけあき)らのアタックに期待したい。



台風被害でコース変更

9月の台風18号による大雨の影響で、従来、コースの一部だった「下野萩の道」で土砂崩れが発生。通行できない状況となったためコースを短縮して行われる。

前回までの最終周回1周10.3キロを14周し、総距離144.2キロで争われる。そのため、萩の道から県射撃場を経て、鶴CC横を抜けるきつい上り坂に至るルートはカットされる。

今回のコースは第1回から第4回までと共通。しかし第1回は右回りで、第2回からは現在の左回りとなった。(変更前の総距離は、14.1キロ×10周+10.3キロ×1周=151.3キロ)。

※記事・地図は16日付け下野新聞朝刊の内容を再構成したものです。



みんなで作る「日光ガイドアプリ」でらくらく観光！！

日光ガイド Powered by goo

インストールはこちら <http://beacon.goo.ne.jp/>